

第5回議会報告会質疑応答記録（概要）

平成25年10月18日(金) 午後7時から

地区名 洗馬地区

委員会報告

Q1 市民

- ・報酬を10月から6カ月間5%から10%カットをした後はどうなるのか。

A 古畑議員

- ・6カ月後は元に戻ります。これは、国から東北大震災補助の財源確保の目的で、国家公務員の報酬を二年間7.8%削減したことによる。

本年度、国から地方も協力するよう言われ、地方公務員の給与を削減する事にした。県知事、市町村長6団体は、地方は地方で決めるとして反発した。しかし、7月実施10月実施した自治体も出てきた。

塩尻市では、これまで退職金を400万円下げたりしてきた。市職員の給与は国家公務員の96%で、国家公務員が下げたことにより103.9%になった。市長判断で、管理職手当のみ削減とした。

Q2 市民

- ・沓沢湖の今後の管理は、どうなるのか。

A 青柳議員

- ・バルブの開閉などの維持管理は、本来なら所有者がすべき。

沓沢湖の所有権は松本市奈良井川土地改良区である。今後の方向は決まっていない。

そのことについて、現在検討中である。水を抜いていて湖は廃止する方向は決まっている。市民の皆さんのご意見をお伺いしたい。

Q3 市民

- ・道路維持費の街路樹剪定について、対象は市道だけなのか。

A 丸山議員

- ・市道のみ。

Q4 市民

- ・個人の樹木剪定は対象外か。

A 永田議員

- ・個人宅の樹木等は持ち主が刈り込んでほしい。区長の皆さんが中心になって実施している。要望があれば、区長に相談してほしい。

Q5 市民

- ・地域ブランド推進事業で、東京・名古屋で実施したが、その効果が有ったのか。塩尻市への観光客の増員数は把握されているか。

A 丸山議員

- ・民間会社と市が家賃を折半し、地元野菜の販売をしたり、木曾漆器を展示販売したりしている。

Q6 市民

- ・宣伝不足だ。宣伝が下手くそだ。

A 丸山議員

- ・東京より名古屋のほうが好評で、売上も伸ばしている。

議会報告（信州Fパワープロジェクト）

Q7 市民

- ・信州Fパワープロジェクトの原料確保は半永久的に安定供給できるのか。

A 青柳議員

- ・森林を循環型で確保する。未来永遠となると、机上論と現実論で、多くの人が心配している。それに対して、信州塩尻バイオマス発電協議会の中の発電部会が、皆で協力して、造成とシステム作りが同時進行している。採算が取れるシステム作りを進めている最中です。

意見交換会

Q8 市民

- ・可燃ごみの最終処分場がいっぱいにならないか。その後はどうなるのか。

A 古畑議員

- ・松塩地区広域施設組合では、再生利用方法も考えている。埼玉県の間場では加工し再利用もしている。

Q9 市民

- ・最終処分場がいっぱいになったら、何処に処分場を移すのか。

A 中村副議長

- ・塩尻朝日衛生組合が解散して、松塩地区広域施設組合の管理となった最終処分場は、塩尻市の土地である。塩尻市の目安では、15年くらいで、満タンになる予定であった。ところが、市民の皆様のご協力で、ごみ減量の効果が有って、20年に延命できた。しかし、それ以後の計画は白紙状態である。その時に皆様と智恵を出し合いながらやっていきたい。

Q10 市民

- ・沓沢湖の後利用に関して、地元議員3人のビジョンを聞かせて欲しい。

A 古畑議員

- ・個人の考えですが、太陽光発電など良いと思う。

A 青柳議員

- ・個人的構想は有りますが、今発表できない。

Q11 市民

- ・東京五輪やりニアに対して、塩尻市は孤立状態になるか。塩尻市の活性化のために、動きや考え方についてはどうか。

A 中村副議長

- ・中央東線の時短や、松本空港の活性化が必要。航空法の改正で、着陸方法が変更され、目視着陸の上空距離が低くなり、今までの高空判断では、着陸回避していた旅客機が低空で目視判断し着陸する事が可能になり、着陸率98%に上がり利用率も64%に上がった。増便も考慮しているようだ。
あと、専門家の話として、佐久市の例で新幹線が通るようになって、中心市街地が活性化されたようだが、観光客などは通過してしまうため、当初の期待と違う方向になって

しまっている。

飛騨高山市は、とても不便なところであるが、文化面の豊かさ、宿泊施設の充実で、とても賑わっている。このような事例から、まちづくり、ブランドづくりを進めていきたい。

A 永田議員

- ・東京五輪の選手村に塩尻ワインを使ってもらおう。信州ワインバレー構想もあり、塩尻ワインは、ソムリエの皆さんにアピールしている。

Q 1 2 市民

- ・地域振興バスの運行時間変更は難しいと思うので、現行のバスを路線延長して欲しいが、どうか。

午後3時のバスの終点を、上小センターから奥平まで延ばして欲しい。生活利用者が使い易い時間帯のバスだから、是非強い地元要望として実現して欲しい。

A 古畑議員

- ・来年4月のダイヤ改正まで、全体の改正は出来ない。
H27に大改正の予定。地元要望に沿えるように市と連携する。

Q 1 3 市民

- ・交通安全に、グリーンベルトや横断歩道について、琵琶橋西交差点がとても危険だ。通学路でもある。横断歩道を設けるには待避所が必要。

A 青木議員

- ・グリーンベルトは、75cm幅が必要と言いますが、人間の肩幅の幅があれば、可能。塗料は行政で、作業は地域の皆さんとPTA等で協力してやれば、県道でも市道でも可能である。

Q 1 4 市民

- ・議会の傍聴者として、議長発言の「暫時休憩」について次の開始時間を明確にして欲しい。1時間30分も待たされたことがある。

A 中村副議長

- ・議会で、言葉の使い分けが決められている。「暫時休憩」は、開始時間が決まっていない場合に使用して、その間、議員は、委員会等で審査している。そのため、開始時間が分からない。

ありがたいご意見として、議会運営委員会で議長の口上等に配慮していくよう検討していく。

Q 1 5 市民

- ・通学路の交通量が増えている。県議・続木幹夫議員にもお願いしているが、市からも強く要望して、通学路の安全対策をお願いしたい。

県道・桔梗ヶ原線や中原交差点など、以前からお願いしていても、遅々として、改良されていない。

A 古畑議員

- ・以前、改良工事の時に、一気に実施してしまえば良かった。地権者のご理解が得られなかったので、中断したままだ。近日中に、地権者説明会を開く予定である。

Q 1 6 市民

- ・選挙の公営看板277箇所は、多すぎる。檜川村と合併して、今までの238箇所プラス檜川分41箇所を、277箇所にした。それでも、まだ多いから経費削減で半減にす

べきだ。投票所に1枚で充分だ。

A 中村副議長

・広く市民のお声を聞いて判断しなければならない問題だ。選挙管理委員会と連携したい。

Q17 市民

・アンテナショップを出しているようだが、塩尻市のワインが知られていない。友人が来て、塩尻のワインを出したら、驚いていた。ワインフェスタなど、もっと告知活動をすべきだ。

A 丸山議員

・ワインと言えば、山梨が有名になっている。東京オリンピック以後、欧州系ワインが認知され始めた。塩尻のワインは高品質で地産原料使用をしていて、高い評価を得ている。ソムリエの皆さんの間では有名になっている。今後は、底辺から浸透させるようにしていきたい。

Q18 市民

・ゲリラ豪雨で上組・元町・芦ノ田の側溝が許容量を超え、溢れ出し、十字屋の店舗のシャッターの30cmくらいまで浸かってしまった。ここは、常に発生していた。以前から、U字溝の拡幅等の改良を依頼しているが、一向に直さない。県道だが、市民の安全安心のために是非早くしていただきたい。

A 古畑議員

・U字溝の幅が狭くなっている箇所があることはじめて聞いた。U字溝の拡幅など、関係部署と連携して県にも伝えるように働きかけたい。